

妊娠初期に症状が悪化した膀胱子宮内膜症の1例

青木 志保, 島田 誠, 井上 克己, 永田 将一
 斎藤 克幸, 小川雄一郎, 松原 英司, 前田 智子
 菅原 基子, 林 圭一郎, 松本 祐樹
 昭和大学横浜市北部病院泌尿器科

A CASE OF VESICAL ENDOMETRIOSIS THAT WORSENE
DURING THE EARLY PREGNANCY PERIOD

Shiho AOKI, Makoto SHIMADA, Katsuki INOUE, Masakazu NAGATA,
 Katsuyuki SAITO, Yuichiro OGAWA, Eiji MATSUBARA, Tomoko MAEDA,
 Motoko SUGAHARA, Keiichiro HAYASHI and Yuki MATSUMOTO
 The Department of Urology, Showa University Northern Yokohama Hospital

We report a case of vesical endometriosis that worsened during the early pregnancy period. A 37-year-old woman had been under treatment for endometriosis (including vesical endometriosis) by a gynecologist during the past 10 years. She was treated for sterility 1 year ago, and became pregnant through *in vitro* fertilization. In her 8th gestational week, she complained of gross hematuria at our hospital. Cystoscopic findings revealed some tumors that appeared worse than the last findings two years ago. In order to deny malignancy, transurethral resection of the bladder tumor was performed in her 12th gestational week. The pathologic diagnosis was endometriosis. She was able to stay pregnant, and delivered a girl. After delivery, cystoscopic findings revealed reduction of tumors. In most cases pregnancy cures endometriosis; however, in this case symptoms became worse during the early stage of pregnancy. The reason for this contrary event is discussed.

(Hinyokika Kiji 58 : 287-290, 2012)

Key words : Vesical endometriosis, Pregnancy

緒 言

膀胱子宮内膜症は子宮内膜症の中で約1.1%にみられる比較的稀な疾患である¹⁾。通常子宮内膜症は妊娠により改善される。今回われわれは、妊娠初期に症状が悪化した膀胱子宮内膜症の1例を経験したので報告する。

症 例

患者 : 37歳, 女性

主訴 : 肉眼的血尿, 妊娠8週

既往歴 : 10年以上前からの子宮内膜症。31歳時に右卵巣チョコレート嚢腫にて右付属器切除術施行。

分娩歴 : 0経妊, 0経産

現病歴 : 35歳時に月経ごとに繰り返す膀胱炎症状があり, 近医にて膀胱鏡施行し, 膀胱子宮内膜症と診断された (Fig. 1)。挙児希望があったため経過観察となり, それ以降膀胱鏡は施行されていなかった。

36歳から近医産婦人科にて不妊治療実施し, 体外受精にて妊娠成立。妊娠8週2日に肉眼的血尿を認め, 妊娠8週3日当院受診。頻尿・排尿時痛は妊娠4~5週に認めていたが, 初診時には消失していた。10年前

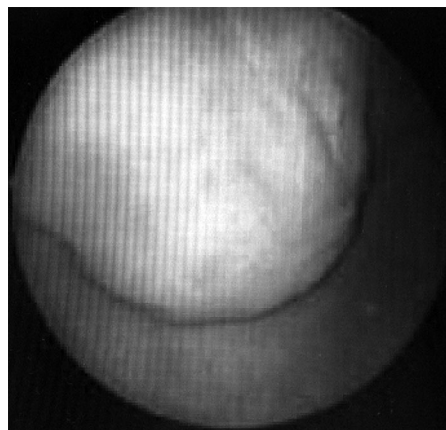


Fig. 1. Cystoscopic findings at the previous hospital showed the bulge into the bladder.

から子宮内膜症にて月経時に膀胱炎症状を繰り返していたが, 肉眼的血尿を認めたのは初めてであった。

尿所見 : WBC 1~4/HPF, RBC 50~99/HPF, pH 7.0, 比重1.010

尿細胞診 : class II

血液所見 : 一般採血所見は異常なし。CA-125 : 26.6と正常。CA19-9 は43.4と軽度上昇を認めた。

膀胱鏡所見 : 後壁から頂部にかけて膀胱内に突出す

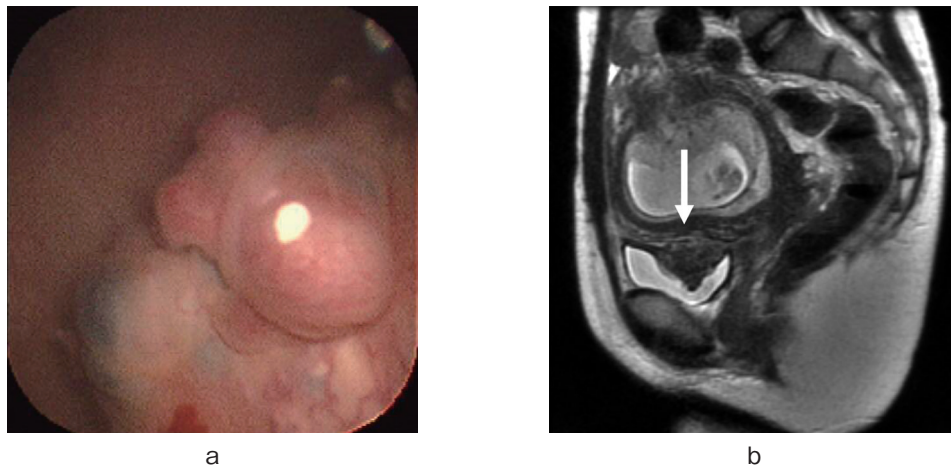


Fig. 2. a) The first cystoscopic findings at our hospital showed diffuse solid tumors show blueberry spots. b) MRI (T2WI) shows a tumor which bulges into the bladder.

る隆起を認め、隆起部分よりびまん性充実性腫瘍が突出していた。その粘膜は浮腫状で一部 blueberry spot と思われる暗紫色の病変部も認めた (Fig. 2a)。35歳時の膀胱鏡所見と比較すると明らかに腫瘍は増大していた。

MRI 所見：妊娠子宮の膀胱圧迫とは別に、膀胱壁後壁から膀胱内に突出する腫瘍を認めた。子宮に浸潤しているようにも見え、悪性腫瘍を否定できなかった (Fig. 2b)。

病理所見：妊娠10週時には血尿は消失したが、悪性腫瘍が否定できないことから、妊娠12週3日、腰椎麻酔下に経尿道的膀胱腫瘍生検を施行した。病理結果にて異所性の子宮内膜組織がみられ、間質の細胞が脱落膜化していることから、妊娠中の子宮内膜症との診断であった (Fig. 3)。

臨床経過：妊娠継続し、23週より切迫早産にて入院安静管理、子宮収縮抑制剤を使用していたが、妊娠29週0日前期破水・陣痛発来となり、1,280 g・Ap 1/7



Fig. 4. Cystoscopic findings at one month after delivery shows the reduction of tumors compared to the first findings.

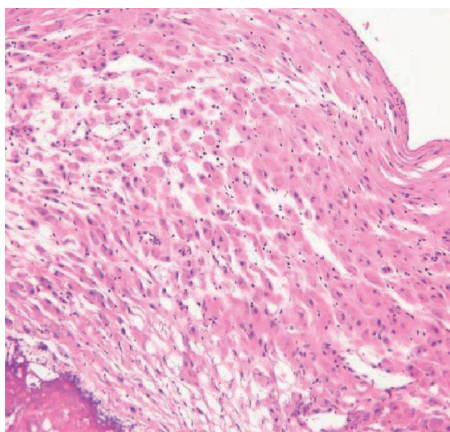


Fig. 3. Histological findings of the bladder tumor indicates ectopic endometrium, and the interstitial cells change to decidual cells (HE ×400).

の女児を分娩した。産褥1カ月にて再度膀胱鏡施行したが、腫瘍は縮小していた (Fig. 4)。現在分娩後約2年が経過しているが、月経再来後は、月経時痛・頻尿・排尿時痛などの膀胱子宮内膜症の症状は徐々に再燃し始めている。2人目の育児希望もあることから、今後は産婦人科にてホルモン療法または不妊治療を施行する予定であるが、将来的に膀胱部分切除などの手術療法の可能性も考慮している。

考 察

子宮内膜症は子宮内膜組織に類似する組織が子宮以外の部位で発生発育する、エストロゲン依存性の良性疾患である。その多くは骨盤内に認めるが、骨盤外に存在することもあり、肺、臍、横隔膜、会陰、腸管、など様々である。泌尿器系子宮内膜症は全子宮内膜症の1.1% (0.3~4.6%) とされ¹⁾、Shook らは84%が膀胱、15%が尿管、4%が腎、2%が尿道に認められたと報告している²⁾。河原らは、本邦152例の統計によると膀胱のなかでも後壁からの発生が最も多かった

としている³⁾。

発生原因としては様々な説があるが、①膀胱子宮中隔のミュー管遺残からの発生、②子宮前壁の子宮腺筋症からの進展、③月経により膀胱子宮窩に逆流した子宮内膜の implantation などが考えられている⁴⁾。

診断は臨床症状にあわせ、膀胱鏡所見や超音波、MRI などの画像診断を用いるが、最終的には膀胱生検などで組織検査を施行して診断する。膀胱鏡では隆起した腫瘍の粘膜下に紫青色の小嚢胞が透見される特徴的な所見があり、本症例でも同様な所見を得られた。さらに粘膜面に病変が浸潤すると潰瘍を形成する。また、経陰超音波にては蓄尿状態では膀胱壁に不均一なエコー像を呈する腫瘍を認めるが、膀胱内腫瘍の質的診断は困難であり、MRI の有効性が高い。MRI では膀胱子宮窩に T1, T2 強調像ともに中等度から低信号を示す辺縁不整な腫瘍を認め、T2 強調像にて高信号を示す点状の部分に伴うことがある⁵⁾。

治療はホルモン療法、手術療法などがある。ホルモン療法単独、あるいは TUR-Bt のみでは再燃や症状の残存も多いとされるが、双方を併用して良好な成績をおさめている報告も認められる⁶⁾。最終的な治療としては開腹、腹腔鏡による病変の摘出が推奨される⁷⁾。ただし、挙児希望など患者の年齢・背景に留意して治療法は選択するべきである。また、近年プロゲスチン製剤である dienogest の開発、低容量ピルの保険認定も進んだため、ホルモン療法の効果も期待されている。

一般的に子宮内膜症は妊娠することにより、症状が軽減されることが多い。これは、妊娠中大量に分泌されるプロゲステロンがエストロゲンを抑えるため、子宮内膜症病巣の間質が脱落膜化し、退縮することによる。

本邦の文献では、妊娠中に子宮内膜症を診断した、あるいは悪化したという報告は見当たらず、本症例が第1例目と考えられるが、不妊治療中に膀胱子宮内膜症を診断した症例は調べうる限りでは3例報告がある⁷⁻⁹⁾。これは不妊治療によって投与したエストロゲンや、手術療法が原因であった可能性が示唆されている。

われわれの経験した症例では妊娠初期に軽減するはずの膀胱子宮内膜症の症状が逆に悪化したため、その原因について考察した。まず、不妊治療によってエストロゲンが一時的に上昇し、すでに膀胱子宮内膜症は悪化していたが、明らかな症状を欠いていたと考えることができる。その後妊娠初期には血尿を認めたが、妊娠中期以降は症状なく経過し、分娩後の内視鏡では腫瘍は縮小していたことから、妊娠が内膜症に対して好影響を及ぼしていたことが分かる。

また、妊娠によってプロゲステロンが上昇するため

に、異所性子宮内膜組織は脱落膜化変化が起こる。加藤らは、プロゲスチン製剤である dienogest を術前に投与した子宮内膜症の手術所見について、脱落膜化した異所性子宮内膜組織は易出血性で、浮腫状となり脆弱化していたと報告している¹⁰⁾。本症例も、妊娠によって脱落膜化した組織が易出血性となり、何らかの刺激によって血尿が出現したのではないかと考えられた。

本症例から、膀胱子宮内膜症の既往がある場合、妊娠初期に症状が悪化しても妊娠前に子宮内膜症が悪化していた可能性も考慮し、妊娠中は侵襲的処置は行わず経過観察することも選択肢の1つであることが示唆された。

ただし、膀胱子宮内膜症の悪性転化はきわめて稀ではあるが報告は存在するため、十分に留意し経過観察すべきである³⁾。

結 語

妊娠すると改善するはずの膀胱子宮内膜症の症状が、妊娠初期に悪化した1例を認めた。不妊治療により一時的に内膜症が増悪し、症状の出現が妊娠初期になったのではないかと考えられた。妊娠中でも血尿を認めたときには、膀胱子宮内膜症の存在を考えながら治療することが大切である。

文 献

- 1) Abeshouse BS and Abeshousue G: Endometriosis of the urinary tract: a review of the literature and a report of four cases of vesical endometriosis. *J Int Coll Surg* **34**: 43-63, 1960
- 2) Sook T and Myberg L: Endometriosis of the urinary tract. *Urology* **31**: 1-6, 1988
- 3) 河原 優, 秋野裕信, 西淵繁夫, ほか: 尿路エンドメトリオーシス本邦152例の臨床統計: 2例を経験して. *泌尿紀要* **40**: 349-352, 1994
- 4) 岡 賢二, 山崎悠紀, 澤 枝里, ほか: 泌尿器臓器の子宮内膜症. *産婦の実際* **56**: 1503-1609, 2007
- 5) 黄金 太, 氏岡威史, 山本 直, ほか: 腹腔鏡下に粘膜温存し切除した膀胱子宮内膜症の1例. *日産婦内視鏡会誌* **25**: 375-378, 2009
- 6) 小玉美智子, 平松宏祐, 金 容輝, ほか: 経尿道的膀胱腫瘍切除術およびホルモン療法にて治療を行った膀胱子宮内膜症の1例. *日内視鏡外会誌* **25**: 395-398, 2009
- 7) 山崎悠紀, 岡 賢二, 宮本 強, ほか: 膀胱子宮内膜症の2例. *エンドメトリオーシス研会誌* **27**: 119-122, 2006
- 8) 安藤忠助, 緒方俊一, 三股浩光: 女性不妊治療中に発見された膀胱子宮内膜症. *臨泌* **60**: 417-419, 2006
- 9) 久保田恵章, 玉木正義, 前田真一, ほか: 不妊治

- 療中に発見された膀胱子宮内膜症の1例. 泌尿紀要 **49** : 440, 2003
- 10) 加藤剛志, 伊藤将史, 苛原 稔 : 術前にジェノゲストを投与した子宮内膜症症例の手術所見. 日本エンドメトリオーシス研会誌 **31** : 175-176, 2010
(Received on January 5, 2012)
(Accepted on March 6, 2012)